

八戸港コンテナ定期航路就航状況(2019年1月現在)

□ 外航 □ 国際フィーダー

コンテナ航路	船社名(日本総代理店)	集荷代理店	寄港間隔	寄港地
中国・韓国航路 (共同配船)	南星海運(株) (南星海運ジャパン(株))	八戸港湾運送(株)	週2便 (月・水)	(NTP E/W航路) 釜山(火)→清水→常陸那珂→小名浜→仙台→八戸(月)→苫小牧→ *南星海運(株)のみ 酒田→釜山(日)→蔚山(火)→光陽(水)→上海(金)→寧波(日)→釜山(火)
	高麗海運(株) (高麗海運ジャパン(株))	ナラサキスタックス(株) 八戸支店	*高麗海運 サービスは (水)のみ	(NCH E/W航路) 連雲港(土)→青島(月)→釜山(木)→石狩湾新→函館→苫小牧→八戸(水) *南星海運(株)・ 高麗海運(株) →釧路→釜山新港(月)→釜山(火)→蔚山(水)→光陽(木)→連雲港(土)→青島(月)
韓国航路	長錦商船(株) (株)シノコー成本	八戸通運(株)	週2便(火・金)	釜山(日)→直江津→秋田→苫小牧→八戸(金)→釜山/釜山新港(月~木) →仙台→八戸(火)→苫小牧→釜山新港/釜山(土)
北米航路	Westwood Shipping Lines (セノワリタイムエージェンシー(株))	八戸港湾運送(株)	休止中	シアトル・バンクーバー・釜山ほか
国際フィーダー 航路	(株)横浜コンテナライン	八戸通運(株)	週1便(金)	横浜・仙台・宮古・苫小牧
	井本商運(株)	八戸港湾運送(株)	週1便(木or金or土)	横浜・東京・苫小牧・仙台
	鈴与海運(株)	八戸港湾運送(株)	週2便(木or金or土)	清水・横浜・東京・苫小牧・仙台・大船渡

主な寄港地と八戸港の所要日数(最短)(2019年1月現在)

寄港地	輸出	輸入	寄港地	輸出	輸入
釜山(韓国)	4	5	タンジュン/アオク(インドネシア)	16	22
光陽(韓国)	8	※	ムンバイ(インド)	26	25
蔚山(韓国)	8	※	ポートクリン(マレーシア)	18	15
基隆(台湾)	12	9	ドバイ(UAE)	28	22
台中(台湾)	15	9	タコマ(米国西岸)	21	21
高雄(台湾)	13	7	ロングビーチ(米国西岸)	16	18
香港(中国)	11	13	シアトル(米国西岸)	21	21
大連(中国)	14	11	ニューヨーク(米国東岸)	29	38
青島(中国)	11	12	バンクーバー(カナダ)	23	19
上海(中国)	11	9	プリズベン(オーストラリア)	31	21
天津新港(中国)	14	11	オークランド(ニュージーランド)	40	28
寧波(中国)	11	9	サウサンプトン(イギリス)	29	35
蛇口(中国)	16	13	ルアーブル(フランス)	30	35
シンガポール	20	20	ブレイメル/ハフェン(ドイツ)	32	35
レムチャパン(タイ)	16	18	ハンブルク(ドイツ)	43	44
マニラ(フィリピン)	19	24	ロッテルダム(オランダ)	41	42
ホーチミン(ベトナム)	15	15	アントワープ(ベルギー)	41	49
ハイフォン(ベトナム)	18	15			

*光陽・蔚山(韓国)については、釜山にまもめた後に輸入されています。

みなと通信

八戸港では、船舶が行き交う航路・泊地を所定の水深に掘り下げる浚渫工事をポンプ浚渫船により行っています。航路・泊地の水深確保により大型貨物船の航行・停泊が可能となり、物流の効率化や安全性が向上します。近年の浚渫工事ではICT(情報通信技術)の活用により、海底面や埋立地を可視化することで、従来の施工に比べて効率的かつ高精度な施工管理が実現しています。

浚渫工事の施工にあたっては、排砂管への標識灯設置や安全監視船配備など、航行船舶の安全に留意しながら2月まで実施予定です。引き続き、関係者の皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

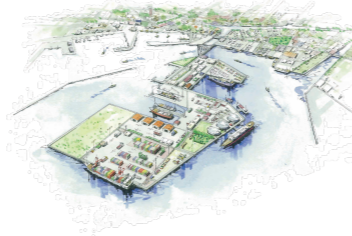
国土交通省東北地方整備局八戸港湾・空港整備事務所
TEL:0178-22-9391 FAX:0178-45-7239

八戸港ご利用のお問い合わせは次の各社へ!

- 海貨業者**
- 八戸通運株式会社 海運部 TEL:0178-29-0202 FAX:0178-20-3281
(長錦商船(株)、(株)横浜コンテナライン 集荷代理店)
 - 八戸港湾運送株式会社 コンテナ事業部 TEL:0178-29-3177 FAX:0178-29-3130
(南星海運(株)、WSL、井本商運(株)、鈴与海運(株)、オリエントオーバーシーズコンテナラインリミテッド(OOCL)日本支社、インターエイシアライン(株) 集荷代理店)
 - 新丸港運株式会社 営業部 TEL:0178-20-2321 FAX:0178-20-2353
 - 八戸運輸倉庫株式会社 営業部 TEL:0178-28-2401 FAX:0178-28-6976
 - 三八五流通株式会社 八戸区域事業所 TEL:0178-52-7755 FAX:0178-52-7751
 - 日本通運株式会社 八戸支店 TEL:0178-20-3040 FAX:0178-20-3154
 - ナラサキスタックス株式会社 八戸支店 TEL:0178-21-6000 FAX:0178-21-6050
(高麗海運(株)集荷代理店)

- 海運会社(国内総代理店)**
- 南星海運ジャパン株式会社【東京都】中国・韓国航路 TEL:03-5843-6100 FAX:03-5843-6110
 - 高麗海運ジャパン株式会社【東京都】中国・韓国航路 TEL:03-3500-5051 FAX:03-3500-5095
 - 株式会社シノコー成本【東京都】韓国航路 TEL:03-6278-6032 FAX:03-6278-6038
 - センワマリタイムエージェンシー株式会社 北米部【東京都】WSL:北米航路 TEL:03-5733-7203 FAX:03-5733-7208
 - 株式会社横浜コンテナライン【横浜市】国際フィーダー航路(横浜) TEL:045-227-8863 FAX:045-461-2181
 - 井本商運株式会社【神戸市】国際フィーダー航路(東京・横浜) TEL:078-322-1600 FAX:078-322-1625
 - 鈴与海運株式会社【静岡市】国際フィーダー航路(東京・横浜) TEL:054-354-3100 FAX:054-354-3102
 - 〃 【東京営業所】 TEL:03-3432-7159 FAX:03-3432-0896
 - オリエントオーバーシーズコンテナラインリミテッド(OOCL)日本支社【東京都】インド・東南アジア航路(横浜港トランシップ) TEL:03-3493-6001 FAX:03-3493-6405
 - インターエイシアライン株式会社【東京都】東南アジア航路(横浜港トランシップ) TEL:03-3580-6555 FAX:03-3580-6575
 - SITC JAPAN株式会社【東京都】中国・アジア航路(横浜港トランシップ) TEL:03-6262-7778 FAX:03-6262-7117
 - ジャパン・パン・ラインズ株式会社【東京都】小口混載貨物サービス(輸出) TEL:03-6779-9610 FAX:03-6779-9650

北東北の国際物流拠点港「八戸港」



八戸港国際物流拠点化推進協議会 Hachinohe Port Promotion Commission

事務局 / 八戸市商工労働観光部商工課 貿易振興グループ
〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1 八戸市庁別館5階
TEL.0178-43-2111(代表) TEL.0178-43-9244(直通) FAX.0178-43-2256
PORT OF HACHINOHE <E-mail> hppc@hi-net.ne.jp (ホームページ) www.hi-net.ne.jp/hppc/

2019年1月発行第46号

発行所 八戸港国際物流拠点化推進協議会

企画編集(株)テクノス

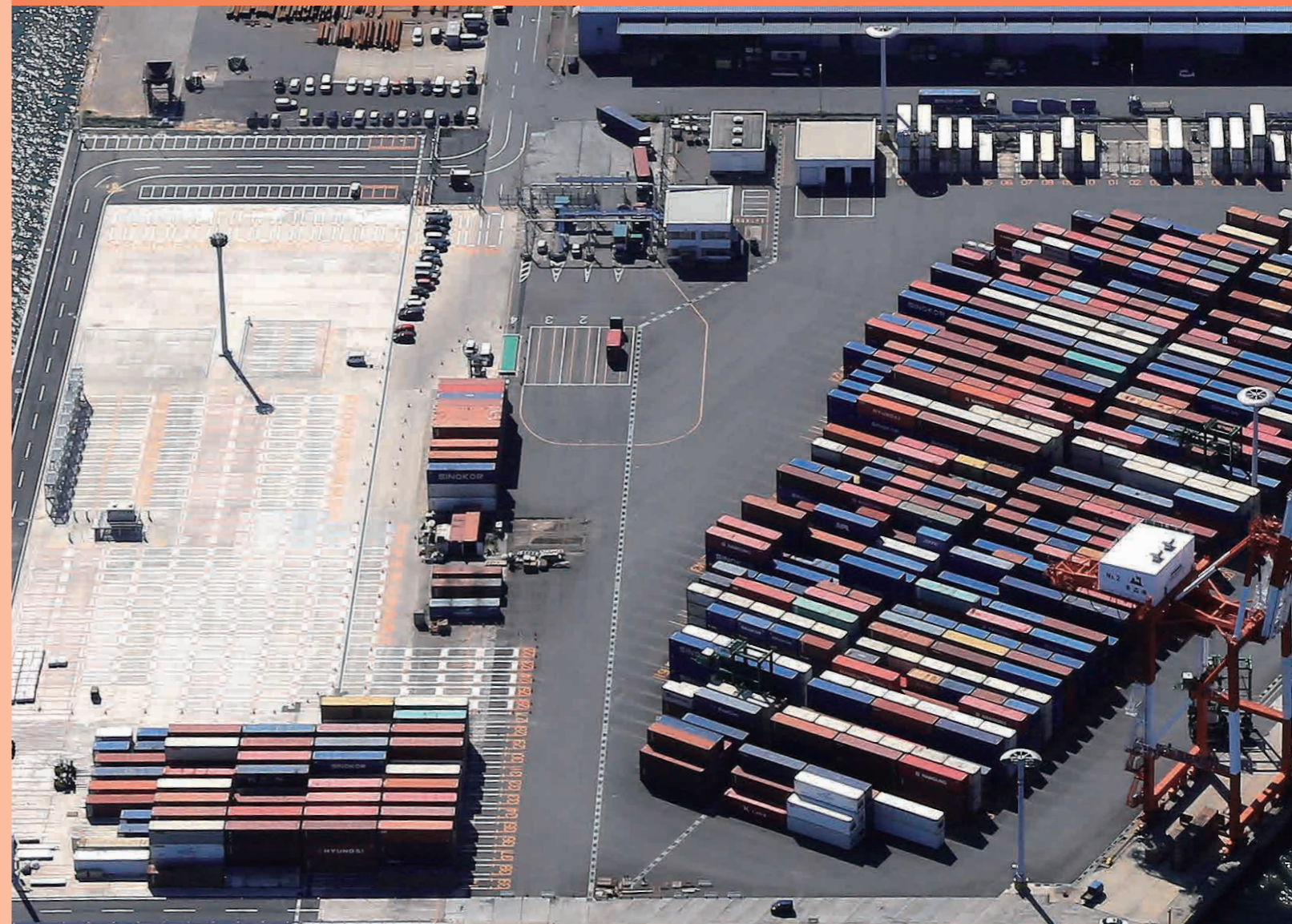
もっとすごい!

PORT OF HACHINOHE

2019年1月発行 NO. 46

八戸港だより

ポート博士 ハチヨウ



- TOPIX**
- P2・コンテナターミナル拡張工事が完成
・荷主様向け八戸港コンテナ関連補助金のお知らせ
 - P3・南星海運の定期航路
開設20周年記念式典を開催
・高麗海運がコンテナ集荷サービスを開始
 - P4・台湾航路の開設に向け、ポートセールスを実施
・八戸セミナー2018開催
・八戸市と苫小牧市による交流連携協定締結
～はちとまネットワーク～
 - P5・2018年八戸港コンテナ貨物取扱量統計
(速報値)
 - P6・ベトナム現地バイヤー等を招聘
・アメリカ向け地場産品の販路拡大を
 - P7・下戸に小判(ジェット青森)
・ふるさと名物応援宣言
 - P8・航路情報、各お問い合わせ先

コンテナターミナル拡張工事が完成

文 / 青森県三八地域県民局地域整備部八戸港管理所 夏堀 正広 なつほり まさひろ

八太郎2号埠頭は、多目的国際物流ターミナルとして2001年に供用開始して18年になります。その間、コンテナ需要は増加の一途をたどり、取扱貨物量は2015年以降3年連続で56,000TEUを超え、このうち2016年には58,972TEUと過去最高を記録しています。

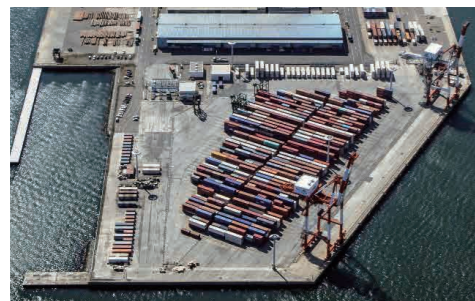
2001年にはガントリークレーン2号機を新設。2013年にガントリークレーン1号機を更新、リーファーコンテナ電源設備を順次増設してきました。

コンテナターミナルは、取扱能力を約51,000TEUとして計画されたもので、こうした需要の増加により、ヤードが手狭になったという声があがってきました。このため2015年から2018年の約3年半でヤードの拡張を含めた再整備を進めてきました。

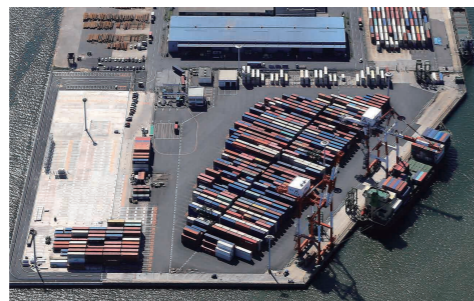
拡張部は、国の土砂処分場1.9haを活用し、舗装や照明設備等の工事を実施しました。

拡張工事により、コンテナターミナルの計画取扱能力は約69,000TEUに増加(18,000TEU増)、リーファーコンテナ電源設備は30口増えて107口となりました。

2018年9月18日に工事を終え、9月27日の完成見学会の後、10月1日から供用を開始しています。



拡張前



拡張後

コンテナヤードの
混雑が
解消じゃ!



農水産物の
取扱増も期待
できるワン!



リーファーコンテナ電源設備



駐車場側から

荷主様向け 八戸港コンテナ関連補助金のお知らせ

八戸港国際物流拠点化推進協議会では、八戸港の利用促進・貿易振興のため、各種補助制度を実施しています。補助対象は2018年1月1日から12月31日の輸出入コンテナで、申請受付は2019年1月4日から1月31日までです。予算の範囲内での補助のため、交付額を減額する場合がありますのでご了承ください。

1. 八戸港コンテナ貨物トライアル補助金・・・輸出入1回につき5万円
2. コンテナ貨物震災復興推進事業補助金・・・1TEUあたり最大5万円
3. 八戸港農水産品等貿易促進補助金
4. 八戸港小口混載貨物輸送補助金

詳細は
ホームページをご覧ください。
<https://www.hi-net.ne.jp/~hppc/>

八戸港国際物流拠点化推進協議会 事務局
(八戸市商工労働観光部商工課内)
TEL.0178-43-9244

南星海運の定期航路開設20周年記念式典を開催

文 / 八戸港国際物流拠点化推進協議会 事務局 書記 泉山 健一 いずみやま けんいち

八戸港国際物流拠点化推進協議会は、2018年8月31日、韓国船社南星海運(株)の八戸-中国・韓国コンテナ定期航路開設20周年を記念し、八太郎2号埠頭J岸壁(多目的国際物流ターミナル)において式典を開催しました。

式典では、南星海運(株)の金庸圭代表理事社長、南星海運ジャパン(株)の徐明千代表取締役社長(東暎海運(株)代表理事副会長)をはじめ、関係者約40名が参加しました。

主催者を代表して当協議会の小林会長(八戸市長)より挨拶を行い、大島理森衆議院議長(代理:板垣徳美秘書)ほか4名からのご祝辞の後、くす玉開披、感謝状の贈呈を行いました。

南星海運(株)金社長からは、「長い年月にわたり航路を維持できているのは青森県や八戸市、地元企業の支援と協力の賜物である。この度の航路開設20周年を期に、当航路の更なる発展のため、重要なパートナーである八戸市と地元の荷主企業の皆様との関係強化を図るとともに、より良いサービスの提供に努め、さらなる発展のため、重要なパートナーである自治体と地元の荷主企業との関係強化を図っていききたい」とのお言葉をいただきました。

当協議会としても、引き続き八戸港の既存航路の更なる拡充に努めて参ります。



八戸港中国・韓国コンテナ定期航路開設20周年記念式典にて

高麗海運がコンテナ集荷サービスを開始

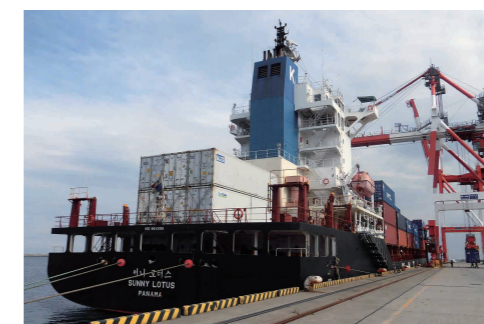
文 / 八戸港国際物流拠点化推進協議会 事務局 書記 上杉 浅香 うえすぎ あさか

韓国船社大手の高麗海運(株)が新たに八戸港での集荷サービスを開始し、2018年11月3日に初めての荷役作業が行われました。

併せて、同社と南星海運(株)との共同配船による中国・韓国航路が変更され、上海、釜山等のほか、新たに中国の青島・連雲港と直接つながりました。荷主が選択できる船社や直航サービスが増え、八戸港の利便性が更に向上しました。

〈ブッキング〉
高麗海運ジャパン(株)
TEL 03-3500-5051

〈集荷代理店〉
ナラサキスタックス(株)八戸支店
TEL 0178-21-6000



高麗海運(KMTC)の接岸



荷役作業の様子

台湾航路の開設に向け、ポートセールスを実施

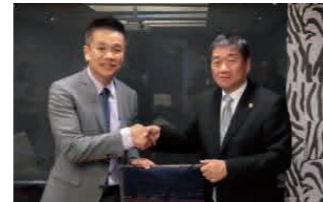
文／八戸港国際物流拠点化推進協議会 事務局 書記 泉山 健一

八戸港国際物流拠点化推進協議会と八戸市は、八戸-台湾間の直行便によるコンテナ定期航路開設を目指し、2018年7月2日～7日の期間、台湾(台北市・高雄市)を訪問し「八戸港台湾ポートセールスミッション2018(団長:八戸市長)」を実施しました。

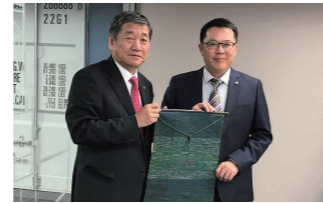
台北市では、2012年10月に訪問したT.S.LINES,LTD.及び2016年7月に訪問したINTERASIA LINES,LTD.を再度訪問し、航路開設に向けた提案を行うとともに、市内ホテルに船会社・港湾関係者・荷主企業等約80名を招待して「八戸港レセプション」を開催し、八戸港の優位性をPRしました。

このほか、輸出先の台湾企業、(公財)日本台湾交流協会台北事務所、台湾日本関係協会及び高雄市政府を訪問し、高雄港や台北港、現地百貨店等を視察しました。今後も積極的なポートセールスを展開し、八戸港の振興に努めて参ります。

〈航路開設に向けた船会社への訪問〉



T.S.LINES,LTD.



INTERASIA LINES,LTD.

八戸セミナー2018開催

文／八戸港国際物流拠点化推進協議会 書記 高橋 華絵

八戸市・八戸港国際物流拠点化推進協議会・八戸市企業誘致促進協議会は、八戸港の利用促進及び当市の立地環境の優位性を首都圏及び中部圏の企業にPRするため、2018年7月25日に東京、翌26日に名古屋で「八戸セミナー2018」を開催しました。

セミナーには、船会社をはじめ、荷主や関係者など延べ448人(東京359人、名古屋89人)の皆様にご参加いただきました。

はじめに、八戸市長から企業誘致や八戸港の利用促進を図るための各施策を紹介しました。

その後、東京会場では、(株)シノコー成本営業部営業第二チームの李義熙係長と(株)フルタイムシステムの原幸一郎代表取締役から、名古屋会場では多摩川精機(株)の熊谷秀夫常務取締役とマルイ鍍金工業(株)の井田義明代表取締役会長から、それぞれ八戸進出のメリットや八戸港の優位性について講演いただきました。



第23回八戸セミナー2018の様子

情報交換会では、セミナーの内容を踏まえた積極的な意見交換・交流を通して、世界に開かれた八戸市・八戸港の魅力を開くにPRし、今回の八戸セミナーが幕を閉じました。

八戸市と苫小牧市による交流連携協定締結 ～はちとまネットワーク～

文／八戸市商工課 磯谷 悠太

フェリー航路やコンテナ航路でつながりが深い八戸市と苫小牧市は、両市のより一層の発展に資するため、2018年7月31日に交流連携協定を締結しました。

今後、交流人口の拡大や連携による相乗効果の創出を目的に、観光、スポーツ、物流・貿易等の分野において、相互に連携・協力していくこととしました。

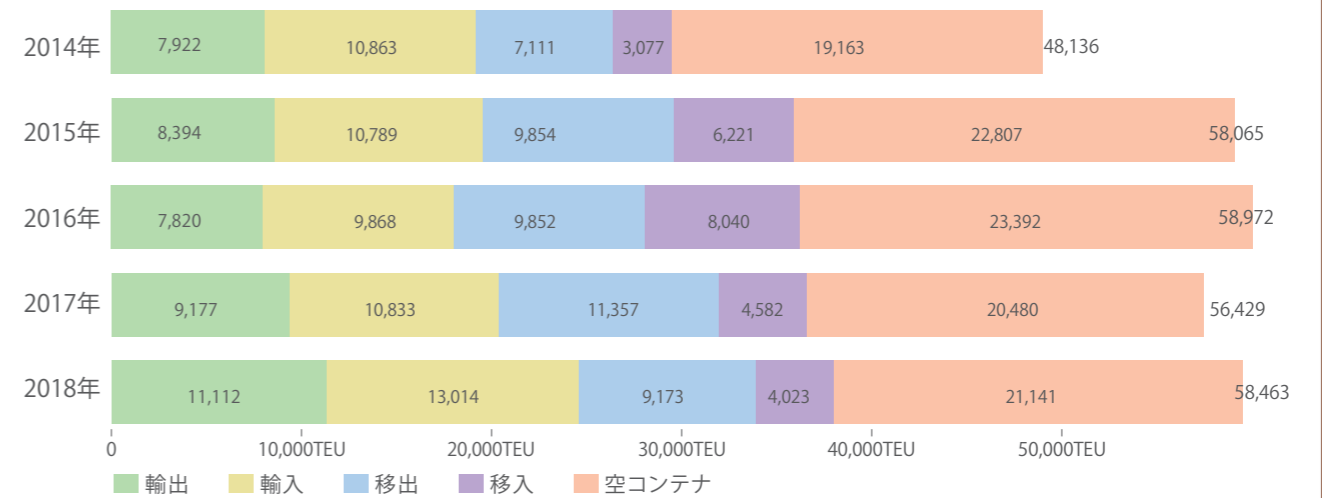
物流・貿易部門では、二港連携によるポートセールスを主な内容とし、台湾、東南アジアへの新たなコンテナ定期航路の開設に向けて取り組むこととしております。



連携協定を締結する小林八戸市長(左)と岩倉苫小牧市長(右)

2018年八戸港コンテナ貨物取扱量統計(速報値) (単位:TEU)

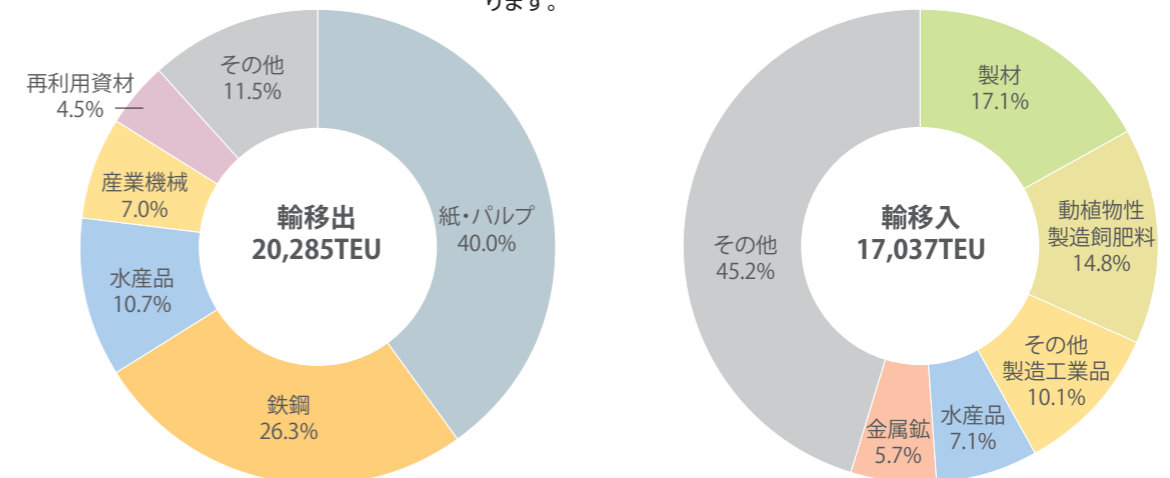
取扱量の推移



※TEUとは、コンテナ船の積載能力を示す単位で、1TEUは20フィートコンテナ1個分を示します。コンテナを単純合計数で表示する代わりに、20フィートコンテナ1個を1、40フィートコンテナ1個を2として、コンテナ貨物量をこの数値の合計で表示する計算方法です。

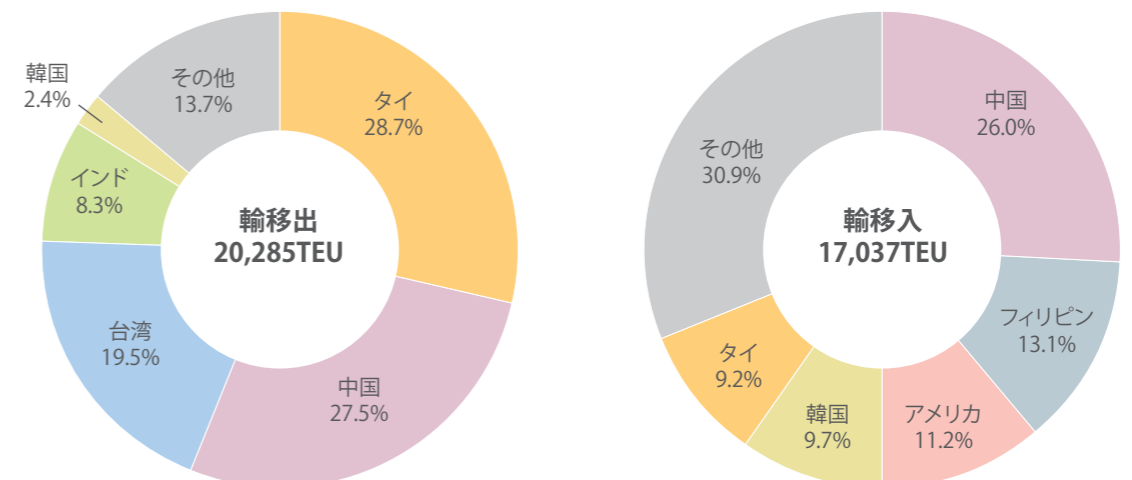
2018年 コンテナ貨物品種別内訳

2018年のコンテナ貨物の品別内訳(コンテナ個数での割合)を見ると、輸移出では紙・パルプの40.0%、輸移入では製材の17.1%が第1位となっております。



2018年 コンテナ貨物国別内訳

国別の内訳を見ると、輸移出はタイが中国を抜いて28.7%で1位、輸移入は、昨年に引き続き、中国が26.0%で1位となりました。輸移出・輸移入ともにアジア各国との取引が半分以上を占めております。



※端数処理の関係で合計は100になりません。

ベトナム現地バイヤー等を招聘

～ベトナム向けに販路拡大を目指す食品メーカーを支援しています～

文 / Year-round ASEAN oriented matching support service (YAMS) 実行委員会 事務局員 いそや ゆうた 磯谷 悠太

県内の3自治体(八戸市、青森市、おいらせ町)と銀行で構成するYAMS実行委員会は、ジェットロ青森との共催により、2018年6月4日～6日の期間で、八戸市内で地場産品の販路拡大を目的とした招聘商談会を開催しました。

水産加工品や農産加工品、肉、菓子類、日本酒などを取り扱う県内のメーカー24社が参加し、ベトナムでレストランを展開する現地バイヤー等に対して、各社が自慢の商品を積極的にPRし、多くの商品で取引を成立させていました。

併せて実施した工場見学では、商談会以上に具体的な商品の確認ができたことから、より効果的な商品PRにつながりました。

その後も、ベトナム国内での商談会のフォローやバイヤーへの営業代行のほか、商品のプロモーションとデモンストレーション活動を行い、継続的な地場産品の販路拡大に取り組んでおります。



招聘バイヤーへ積極的に商品をPR

青森の美味しいものを
ベトナムに広げるぞい!!



アメリカ向け地場産品の販路拡大を

～アメリカ向けに販路拡大を目指す食品メーカーを支援しています～

文 / 八戸市商工課 わしま まさひろ 和島 将彦

市では、八戸圏域連携中枢都市圏の町村(三戸町、五戸町、田子町、南部町、階上町、新郷村、おいらせ町)と連携しながら、アメリカに向けた地場産品の販路拡大に取り組んでいます。

今年度は、販路拡大事例などの情報提供や米国食品安全強化法への対応強化のため、次のセミナーなどを開催しました。

- ・八戸圏域地場産品海外販路拡大セミナー(4月:24名参加)
- ・米国食品安全強化法対応セミナー(5月:17名参加)
- ・PCQI養成ワークショップ(5月:17名参加)
- ・個別相談会(8月:3社参加)

また、6月25日～26日には、八戸市庁において、アメリカ向けの食品を取り扱う国内外のバイヤー(4社)を招聘し、八戸圏域の食品メーカー(12社参加)との商談会を開催しました。メーカーから提案した商品は、八戸圏域が誇る農林水産物の素材を使った食品・加工品であり、バイヤーからも高い評価を受けたところです。現在は、取引成立が1件、その他複数の商品が交渉継続中となっています。

2019年2月には、地場産品のPRと更なる販路拡大を目指すため、ニューヨーク市において、青森フェアやバイヤーへの営業活動などを実施する予定です。市ではこれまで、ロサンゼルス市やシアトル市などの西部エリアで事業展開してきましたが、今回初めて、東部エリアのアメリカ最大の都市ニューヨーク市で取り組むこととしており、新規開拓先として大変期待しているところです。



八戸圏域地場産品海外販路拡大セミナー



招聘バイヤーへ積極的に商品をPR

新たなエリアを
開拓して輸出拡大を
目指すワん!



下戸に小判

2018年11月、地域課題の解決などを通じた地域活性化を目的とした産業交流事業として、ルクセンブルクから、国立ワインブドウ機構(IVV)とワイナリー2社の醸造・ぶどう作りを熟知する責任者を招聘し、函館・弘前・青森・八戸・盛岡・仙台のワイン・シードル等の醸造所等と一緒に回った。東京では、ルクセンブルク経済省などによる輸入社向けセミナー等で、招聘者がプレゼンするイベントも複数回開かれた。

八戸の方々に「酒が飲めない」と言うと、「おまえ達は人類か」といった怪訝な顔をされる。そんな我々が招聘した3者は、訪問先約10カ所が日頃の製造方法の悩みなどをぶつけられる、良いカウンターパートだった。さしずめ下戸の我々は、「猫に小判」ならぬ「下戸に小判」だろうか。

黒にんにくつながりで、毎年のように同国関係者が来訪している八戸にとっては、今回の招聘事業はあまり珍しいことではなかっただろう。だが、日本の新興ワイン/シードル等果実酒メーカーが海外との交流を始めるに当たって、既存の関係があるフランスやドイツ、イタリアといった老舗メーカーには新たに入り込める余地はあまり多くないように感じる一方で、EUのなかでも、ルクセンブルクやベルギーといった比較的人口が少ない国々では、農産品に付加価値を付けて稼ごうとしており、学べるところが多い。モーゼル川沿いのワインに限れば、日照量など気候の関係で、だいたい白9割、赤1割の割合で生産されており、寒冷地である東北地方との共通点も多い。

彼らが、約1週間に渡る日本での改善提案と、日本のワイン輸入企業との対話を通じて得た感想は、「日本のワイン・シードルは高価格で羨ましい。」というものであった。一方、日本のワイン業界誌編集者に話を聴くと、「大企業経営の一部を除くと、少量・高コスト構造」で「大半が地域振興の一環ではあるが儲かっていない」とのこと。

日本では人口減少が急激に進み、地球温暖化の影響もあ

文 / ジェトロ青森貿易情報センター 所長 きむら けいいち 木村 慶一

り、北に北に食用種のぶどうを使ってワインを製造するところが増えており、今後、長い目で見れば、大企業ブランド以外は、地域ぐるみで総力戦になってくるのも必然だろう。日本各地で、欧州のワイン用を含めた様々な品種を植えて、土壌や気候に合った最適品種を作るために試行錯誤している様子が垣間見れた。招聘者は、最初は山ぶどう種を含めた食用種を使用する日本のワインづくりに対してかなり否定的な反応を示していたが、招聘後半になるにつれて、食事とのペアリングなどで我を強く主張しすぎない食用種使用中心のワインへの理解も見られたと考える。

招聘を通じて感じたことを結論だけ言うと…

- 1) 人口減少の日本で過当競争を勝ち抜くためには、大規模化や差別化により、高い利益率を追求するしかない
- 2) 日本国内市場は頭打ちなので、大規模化を追求するのであれば、コストメリットを発揮するべく、ぶどうやりんごなどのジュースを収入源として多く売るか、海外輸出で量をこなすか
- 3) 差別化や利益率を追求するのであれば、他ブランドとの差別化を考えるべきで、例えば赤ワインの製法で白ワインを製造(いわゆる「オレンジ・ワイン」)するなどがあると、おもしろくなっていくかもしれない。

上記については、あくまでも、小判(果実酒女人達)に話す同行者の猫(下戸)の気分ではあるが、今回の招聘者による外からの技術的な提案等は、世界的にみても高いレベルの内容であることから、日本の関係者は大いに参考にして頂きたい。

ふるさと名物応援宣言

文 / 八戸市商工課 いちかわ くにあき 市川 国昭

八戸圏域連携中枢都市圏は、2018年8月30日にこの地域の特産品で青森県が生産量日本一を誇る「にんにく」及び「黒にんにく」の加工品をふるさと名物として指定し、8市町村の首長による応援宣言を行いました。

ふるさと名物応援制度は、地域ブランドの創出による地域産業の高付加価値化等を目指す国の取組で、市町村が行うこの宣言はその一環となります。今後、地域の中小企業等がにんにく・黒にんにくを活かした加工品の商品開発等に取り組むときに国の支援を優先的に受けることが可能になります。

特に、黒にんにくは、世界各国に2.9億円(81.49t)の輸出が行われ、今後も成長が見込まれる地域産業のため、更なる海外での販路拡大が期待されております。

